

三島ダムの漏水対策について

令和 2 年 1 月 3 0 日
農 林 水 産 部 耕 地 課

平成 30 年 5 月に発生した三島ダム（君津市、農業用水）の洪水吐^{こうずいばき}の漏水への対応については、昨年度に応急工事を行うとともに、現在もダムの水位を通常より 3 m 下げた状態で監視を続けています。

このため、ダムの貯水量は満水時の約 7 割となっていますが、農家の方々の節水努力と近隣ダムからの応援給水により、昨年度と今年度は水稻の収穫を無事に終えることができました。

また、ダムの専門家等による委員会を設置し、対策工法の検討を進めており、本年度中に具体的な工事内容を決定し、早期着工を目指してまいります。

（なお、昨年^{こぞ}の台風・豪雨による新たな漏水は確認されていない）

※洪水吐：大雨時にダムの余剰水を下流の河川へ安全に放出させる施設

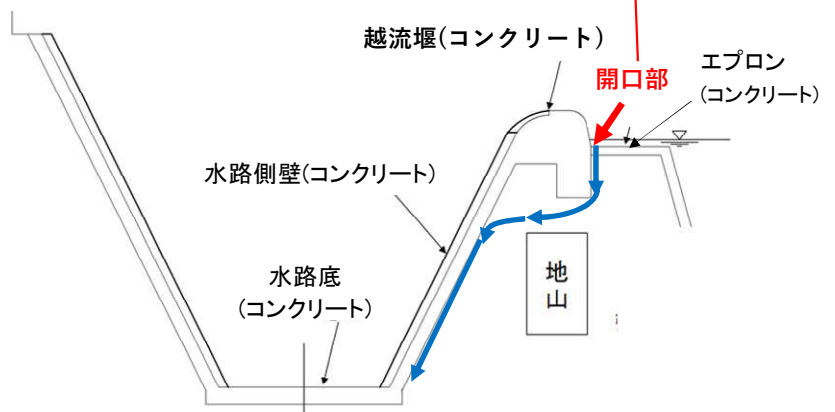
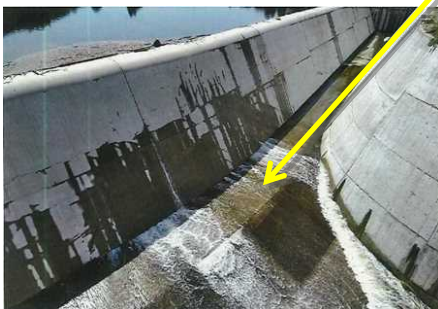
1 三島ダムの概要

総貯水量 540 万m³
受益面積 水田 1,606ha
工 期 昭和 18～30 年
管 理 者 千葉県



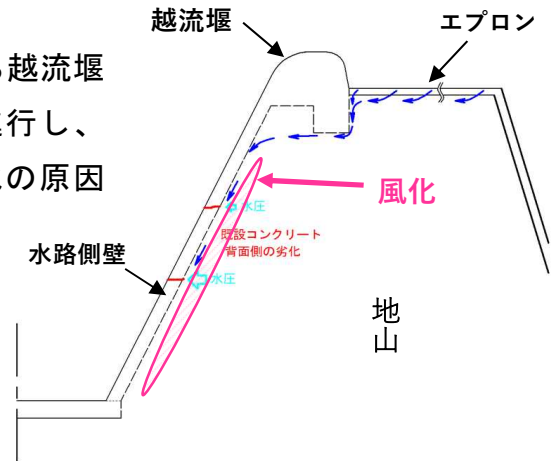
2 漏水の状況

漏水の状況(H30.5.15 撮影)



3 漏水の原因

昨年度の検討会において、エプロン部から越流堰の下部にかけて浸水による地山の風化が進行し、側壁と地山の隙間が形成されたことが漏水の原因であると報告された。



4 貯水位の管理

ダムが水位が上昇すると開口部に水が入り漏水が再発するおそれがあるため、現在、洪水吐の一部を切り下げ、満水位を標高 82m→79m とし、水位の上昇を抑えた状態で運用している。

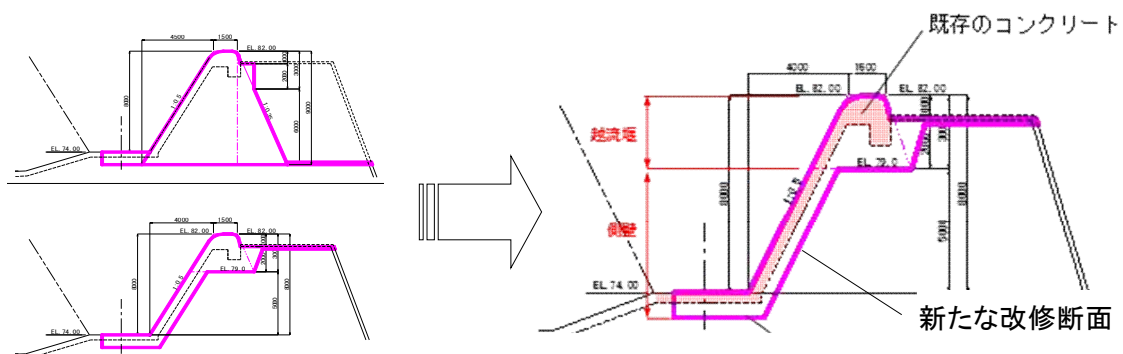
このため、漏水前の 66%の貯水量が満水とっていることから、ダムの用水を利用する受益農家に対し、節水の協力を呼びかけるとともに、三島ダム上流の豊英ダム（工業用水）から応援給水を得ながら、営農への影響が生じないように運用している。



5 本格復旧に向けた対策工事の検討状況

昨年度に引き続き、ダムの専門家等で構成される委員会を設置し対策工事の検討を行っており、改修断面が決定された（コンクリートの壁厚を 50cm→1.0m へ増強等）。

現在、河川管理者や企業局（工業用水）と調整を図りながら、施工計画の検討や河川協議等を進めており、本年度中に工事内容の詳細を決定する。



昨年度の検討会では、地山の状態に応じて全てコンクリートで置き換える案1（上段）と、既存のコンクリート壁より強度を増した形で部分的に改修する案2（下段）が示された。

今年度の検討会では、追加の土質調査や詳細な解析を行った結果、改修を行う区間は基本的に全て案2により工事する方針が決定された。